冬の月

窓月水の月よべの月に

夜半の月 涼月は

月を思ふ 月を籠む

月を良み

月読の

照る月も 花に月

昼の月

新月の色

新秋の月 すごき寒月

澄める月かな

千茫

秋の月を

底まで月の

空ゆく月も 旅こそ月は

旅

天象

月の顔 あそべ 月も見で 月宿る 月雪を 月を入れて 月を帯びて 落ちて 月清し 月きよみ 月くらく 月寒し むまや 月人の 月ひとり 月ふくる 月見めと 月も見つ 月すみて 月ぞうき 月たけて 月なれや 月になく 月に映え 月に恥ぢて 月の色に 月は淡く月は老い 月の澄む 【月】 入る月の 月入れたる 月うすき 月小田を 月 君は月 冴えよ月 月のせて 月を挟む 月を吹いて 月を見 海の月 江の月に 月の船 月運ぶ 深夜の月 月は船 月の前 すむ月 つきの ・ 神絮 と 月はよ 月に 月代

は

出づるは月の一出で来る月の一入りぬる月のいるさの ふ月を 月にうかぶ月かな一憂き世に月の一薄い夕月 うつろ 雨気の月の ●あかでも月の うわさ聞月 天ゆく月を 秋田の月に 秋夜月 浅茅の月の 落ちたる月のをのへの月に姨 あらしに月の いさよふ月に

> 捨の月に 木の間の月に きりふる月に 雲居の月は 心と月を こずゑの月に はらぬ月の 代の月も 里には月は 山月は寒し 霜夜の月を 龍に月は 枯野の月は 寒谷の月 孤峰の月を こよひの月を さえたる月 里分く月の さやけき月を 春王の月 三秋の月しづまる月のしのゝめの 隠るる月をかたぶく月に けふ月のわにけふの月かもきょう 川づらの月 白毛の月の 白き月をも かはのせの月 更科の 神気

ろし とや 月さゆる夜の 月しなければ 月さへさやに 月さえわたる 月さしいで、 月さむし 月きらく〜と 月こそ色は 月こそ草に 月さべあやな 月冷じく 月すゝり泣く 月すむうらを 月すむ空に 月入る山も なる月の 月海上に 月傾きぬかによう かたぶ 月出しこそ 月いでまじる 月いと明かき 月おし照れり 月かも君は 月清ければ 月落ちかねや 月斜窓に入る 月おもし

月すむまじと 月すむ峰の 月ぞうつろふ 月ぞ傾く

美くしや美し君真善美西施の美美 しく 愛しき うつくしげ うつくしむ 【美し】 美くしき いつくしくて いと美々

人にて●あな美しやな あらうつくしの いとうつくし しきもの 美しく甘き うつくしければ 美しとのみ ご 美しき時 美しき人 美しき姫 美し君の うつく げ うつくしかりつる うつくしきこと うつくしきち

娟たる ゆゝしう美し/色の限を びびしきをのこ みなうつくしき 見るにうつくし ふれ 美人は言はねど 人うつくしき 美男におはす 桃李の装ひ 験は芙蓉 迦陵頻なる 翠黛紅顔 夭桃の

うつくしうきよら ことに美しく 白ううつくしう

花の 花のよう げなる童 きよげにものを 車清げに 庭いと清げ に●あたら清し女 清げなるをのこ 清げなる人 清 厳しいつくしう●あないつくしき一厳し気なればい 【清げ】[美しい。きれいだ] いと清げ 清気なる 灰清げ 花の頸は 花の唇 花のたもとに 花の錦を

> 丹つらふ 映えて美しい つくしきかも 厳し気なり はえていつしき さ丹つらふ 丹の穂なす●丹つらふ

あえかなば。上品 あえかなる なよびかなる なよび 妹は 丹つらふ君を 丹の穂の面 まるわ

かに●あえかに見えたまひ

色うるはしう。うるはしき糸。うるはしき髪。うるは しみせよ
形美し
髪うるはしく
大和しうるはし 【麗し】 美しかり 麗はしき 愛しと うるはしみの

麗し・細し・妙し うら麗し 麗し妹に 麗し女を 美麗 美麗物 美麗なる●形美麗に

ばみ 文花の微妙 妙なり 妙なりし たへなれど 妙音の●妙なる蓮 ぐはし子を くはし少女が 妙しき山ぞ くはしはし 妙しまぐはしも●あやにうら麗し糸の細しさ くはし若芽は
ま
麗
し
児
ろは
ま
ぐ
は
し
み
か
も

らうたしいとしい。 労たきこと らうたげなり らうた 妻●男かはゆしつままといった 【可愛し】 愛盛り しほらしく つぼいなう わが目 馴れてつぼいは

安の●心はやすく 心やすくぞ 後世安穏に 死なば く 目を安み やすげなり 安らかに 平 らもなく 国やすく 平らかに たいらけ 【安し】ゆやすい。あな安らけ、あら楽やう

安けむ 父よ安かれ 馴れ安らかなる 幣も安けし

つつ 安席かも 宿屋安けし ゆくすゑやすく も無く 障無く 恙むことなく 全くしあらば くおくれる 安く寝る夜は 安く肌触れ やすく待ち みるも気安き やしうゐたりと 安く老いぬる やす せと 真幸くもがも/親の無事 ことぞともなき 【真幸く】
無事に。 ま幸くて●真幸くあらばま幸くま

さまぬ目に 慰む方は 慰むやとぞ 慰むれども 慰 む●おもひなぐさむ 心 慰に しばしなぐさむ には吹かず
人をも和し
見和ぎし山に/影やはらぐる そ和ぎぬる こころ和ぐもの 心なごみき 心はなごめ 【慰む】 慰まず なぐさまば 【和ぐ】 ゑ゚゚ゑ゙゙ゑ゙ 和ぎむかと 和の今 なごむまで●今 潮の和みぞ 和ぎなむ時も 和ぐる日もなし 和 慰むと 慰めに 慰め

> なぐさめてまし なぐさめにしも なぐさめわぶる めがたき 慰めかねつ なぐさめぞなき 慰めつべき

心

ほどぞなぐさむ 身をぞなぐさむ 夢に慰む 【穏し】 呼程。おうとり。 おいらかに おほどかに ゆほびか

なる ゆほびかに ゆくらかに ゆくらくら●鶴おほ 静心[落ち着いた心] 静心 しめやかに●しづ心なし どかに ゆほびかにてぞ ゆららさららと

姿ゆたけき 手本寛けく 寛けき見つつ ゆたけきも に その夜は寛に ゆたにあるらむ ゆたに見えけり 寛けし ゆたけきかも ゆたけくも●海もゆたけし 【寛】のんびり。 ゆたならば●潮干のゆたに しづけくゆたりょうとり。

に のどけくて のどけさや のどやかに●あしたのど 心長し気長。 心長き人 心ながくも 長き心を ゆるぶばかりを ゆるむまに/ ゆるりと寝るか 緩む 心ゆるびて たづなゆるすな ゆるふことなく のは ゆたけきを吾は 寛けく君を ゆたけに解けて 【長閑】 のどかなる 長閑なれ 長閑にて 長閑けき

けき 音ものどかや かげぞのどけき 影のどかなる



紅房の 閨 [寝室] 春閨も 鬼の寝屋 深閨に 寒閨に 閨ちかき 紅閨を

やの月影 くる わが閨のうちに/よどのさへなど 閨へも入らじ 閨洩る月が やぞゆかしき ひとり 閨の灯りの さしいるねやの 閨のともし火 外^とに 閨にしる哉 閨の中に● ねやのあたりに 翠帳紅閨 閨の隙さへ 閨には黄金の こがね 班女が閨の 一雨夜のねやは 閨のくろかみ 閨寒くして 閨のふすまの むなしき閨の 閨中ただ 閨に吹き 閨の ね ね

妻屋 寝室の 臥所[寝床] **室**髪 室に入りて 臥所あせぬと さ宿し妻屋に 妻屋さぶしく 室の梅湯 臥所はなれば 薬室の 幽室に

こもれど まらうどゐなど 蘭室に●かうぢのむろや 生部屋の** 坐敷哉 校正室の 茅斎は●養蚕部屋のほうさんでも 室のとぼそを 巫祝の室と 隣室の三古りんしつしゃる 室に

ふける板間の 間。 不開の間 板敷を ほそき板敷/土間のしめりに 板 奥の室の 間 より あくる板間を 間借して●一室を薫す 閨の板間

> 厠かわや ع しばのとに あふり戸や 厠に来て 扉を敲く 雪隠に 朝戸開けて ひはり戸や 野雪隠●くそふくにしてのまいん 裏戸出でて 槙s の 芦も 玻璃扉

叩く妻戸は しと戸をうつ、柴の編戸を ら戸を●朝戸を開き 奥の遣戸を 御戸開くめる 戸を吹きあけて 宿の妻戸を 柴の戸あけて 竹の編戸に 引立戸かな くらす松の戸 屋の戸押そぶる 真木の戸

山桜戸を とほそ いで、とぼそに 我は妻戸に/明た潜りもからまど 君が扉に 苔のとぼその

たたく

の扉は 戸ぼそ閉ぢてし 谷の戸ぼそに 真柴の扉 竹扉を開けば 松のとぼそを 扉に彫れる 小簾り

格う 子 戸と閉る **蔀** 三 格子戸の 小蔀より こじとみ せきし戸を 御隔子を●格子な上げそれのよう 小半蔀 とざしつ。戸を閉てつ●草の戸 立たないとな

ざしに

ささず寝にけり

ささで明けゆく

鎖すなら

掛金[鍵] 鎖さい 開窓に 鎖さぬ折木戸 障子の懸金 さはる窓 遣戸の懸金/小ひさき鍵を 戸も閉してあるを 山窓に 窓囲む 窓越しに



4

5

 \mathbf{H}

7

光

10

闇

13

雲

14

霞

16

霧

17

露

18







野 37 岩 39

22 + Ш

雪 25 霜 27

40

42

道

46

玉

48

金

氷 28

風

29 吹 33

寒 34

暖

36

49

谷 50

III50

池 52

52

水

流 55

<u>1</u> 天

地 理

瀬

58

橋

59

港

60

島

61

江

61

海

63

波

64

里 67

都

69

宮

70

玉

72

高

79

2

置

3

形 位

深 形

80 74 近 面 81 75 遠 間 77

方 **.** 78

残 幾 103 97 小 大 105 98 長 少 99

4

無

102

88

多

100

増

101

105 全 106

115 古 115 新

夏 134 116 秋 H

5

時

朝

124

昼

126

夕

127

夜

129

春

132

時

107

過

111

終

114

昔

135 118 年

冬 137

121 代 123

衣	9 体	(人)	7 状 態	6 灯 音 火 色	
		8			
染 衣 251 242	目 229 220	寂 恋 205 183	弱 美	静 150 138	
粧 着 252 245	見 230 224	空 206 186	浮 匂 172 162	騒 火 150 139	
沓 254 248	手 ₂₃₃ <u>第</u> ₂₂₄	京 207 188	摇 香 173 163	色 焼 153 140	
笠 254 249	足 髪 236 225	悲 208 190	荒 期 174 164	赤 燃 155 141	
	寝 237 226	泣 心 209 193	乱 才 175 165	白煙 156 141	
	枕 口 240 228	憂 惜 211 196	落 幸 176 166	黒 聞 157 143	
		悩 欲 214 197	捨 栄	青 音 158 144	
		惑 216 199	消 179 168	黄 鳴	
		悔 安 217 200	変 著 182 169	声 148	
		恨 夢 202	薄 170		
		恐 楽 219 203			

[15] 技 芸	14 往 来	13 仕 事	<u>12</u> 住	<u>11</u> 食	
	*				
歌 325 320 書 琴	転 訪 304 291 泳 行	分農283275漁飼	簾 宿 272 264 掃 住	菜 食 260 256 厨 酒	
326 320 読 芸	305 292 隠 来	283 278 作 切	273 266 湯 庭	以 16 262 258 味	
328 323 学 遊 329 323	305 294 別 帰 307 296	285 279 売 持 287 279	274 268 室 270	259	
	出 309 297	商 開 288 280			
	旅 共 311 298 医 集	金 引 289 281			
	馬 313 300 舟 居	暮 打 290 281 弓			
	315 301 車 歩	282			
	319 303				

	20 植動 物物		人		18 神 仏		17 生 死		16 思考	
					III					
14-	木 403 葉 405 鳥 616 虫 428 獣 428	¹ 花 ³⁹ 咲 ³⁹ 散 ³⁹ 植 ³⁹ 芽 ³⁹ 草 ⁴⁰	母386 親387 女389 君389 我391	人376 職379 男38 女38 妻38 妹38 娘385	経 372 僧 374 寺 375	神 365 社 369 仏 370	墓 357 世 358 怪 361 戦 362 守 363 刀 364	命350 生35 若35 老35 病35 死355	様342 性34 徒35 嘘36 愚36 悪37 叱38 呪38 罪	言33 名33 第35 第37 第38
装丁・イラスト 和久井昌幸									349	340